人権通信　保護者版 Vol.4

しらかべ

創立 100 周年ロゴマーク

２０１７年3月１７日　人権・同和教育部発行

春暖の候、保護者の皆さま方におかれましてはご健勝のことと存じます。今年度も本校の人権･同和教育にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。そして、「しらかべ」をお読みいただいた感想や本校の人権・同和教育の取り組みについてのご意見などについて、懇談などで返信いただき、ありがとうございました。来年度も変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

震災の記憶～本校生の読書感想文より～

４月に熊本県で大震災が発生しました。残る一人の行方不明者を一生懸命捜索する自衛隊や消防士の様子をニュースで見ていて、「生きているこの人には会えんかもしれんな」とつぶやいた娘に、救急救命士である父親は「確かにそうかもしれん。でも待っている家族には大切な命やけんな」と。この言葉に命の大切さを教えられた生徒は、その後、東日本大震災のルポルタージュである「遺体　震災、津波の果てに」という本を読みました。8 月にこの行方不明者の遺体が見つかったニュースで、その方の父親の周りの人への感謝の言葉とやっと連れて帰ることができるとの言葉を聞いて、父の“待っている家族には大切な命”という言葉の通りだと思ったそうです。その生徒の感想の一部を以下に、紹介します。

津波で亡くなった人たちの遺体安置所での遺体の様子など、このまま読み進めるのが怖かった。その中で、寒くならないようにと遺体を毛布に包んであげる姿や「自分が頑張らなくてはならないんだ」と必死に自分を奮い立たせている歯科医師の様子などを読むうちに読まなければならないという気持ちになった。

あとがきに３年後の釜石の姿が書かれている。未だに遺骨が発見されず、骨壺に遺族が遺品を入れているだけのもの、名前のない骨壺。今でもお寺には市内外の方がお参りに来ているそうだ。月日が経っても、震災のことを覚えていてそうしてくれる方がいるのは素晴らしいことだと思う。本の中でも「遺体は誰かに忘れられてしまうことが一番つらい。だからこそ、生きている者は彼らを一人にさせてはいけない」という言葉があった。命の一つひとつがそれぞれの家族にとっても大切な命であり、その命を大切に思っているということ。命は地球より重いという言葉が今、はっきりと私の心の中にも重さのある、意味のある言葉になった。私も、まわりの大切に思ってくれる人たちのために自分の命を大切にし、まわりの人たちの命も大切に思っていきたい。そして、震災の記憶。これをきちんと次の人たちに伝えていく。そうしてこの震災で亡くなった人たちの命を大切にしたいと強く思う。

「部落差別解消推進法（部落差別の解消の推進に関する法律）」について

2016 年 12 月 16 日、「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行されました。同和問題は、日本社会の歴史的発展の過程で形づくられた日本固有の重大な人権問題です。坂出高校では、これまで継続して同和問題をはじめとするさまざまな人権課題に対する学習を行っています。これからも、豊かな人権感覚と人権に対する正しい理解・認識及び人権を尊重する意欲・態度を身につけた生徒を育んでいきたいと考えていますので､今後とも､人権・同和教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

＜1 年生3学期の取り組み＞

（1） ～障がい者をとりまく問題について考える～

１月１１日に「障がい者をとりまく問題について考える」というテーマで LHR を行いました。県立盲学校から４人の先生方をお招きし、視覚障がい者が使用する白杖や点字ブロックのこと、手引きの仕方などについてのお話をいただきました。その後、スポーツ体験として、目隠しした状態での縄跳びや、代表者が視覚障がい者用に考案されたボールを使っての球技を行いました。

この学習で生徒が書いた主な感想（一部抜粋）を以下に紹介します。

目隠しをしての縄跳び

- 今回の講演会のように、視覚障がいについてよく知ること、正しい理解を得る機会があれば、この世の中は、すべての人が気持ちよく過ごせるようになると思います。まれに坂出駅のホームでも視覚障がいの方が点字ブロックを辿っているのを見かけることがあります。そんな時私は、「何か手助けすることはあるかな。でも、何が正解なのか。」と思います。結局もやもやを抱えたままになるのですが、今日の９０分があったことでそれが解消されました。相互のコミュニケーションを大切にして、勇気ある一歩を踏み出すことができそうです。

- 今まで障がい者の方がどのように困っているのか、具体的には知らなかったけど、今回視覚に障がいのある方々の困っていることや社会での活動を聞いて、まだまだ障がいのある方にやさしい社会とは言えないなと思いました。障がい者に対して悪意を持って接している人はほとんどいないと思いますが、無関心な人はまだまだたくさんいると思います。点字ブロックの上に大量の自転車が駐められているのを駅前などでよく見かけますが、そのことが現状をよく表していると思います。少なくともそういうことはないようにしたいです。

（2） ～インターネットと人権～

１月１８日は、「あの空の向こうに」というＤＶＤを視聴し、インターネットの正しい使い方やルール、モラルなどについて考えました。生徒にとってインターネットの利用は日常となっています。手軽で便利ある反面、正しく利用しなければ危険性も高いことを認識し、身近な問題として捉え、依存するあまりに人として大事なものを見失ってはいないか、誰かを傷つけるような使い方をしていないか、など自らの生活を振り返りました。この学習での主な感想（一部抜粋）を紹介します。

- スマフォを持つことが当たり前になりすぎて、使い方を改めて考えるのは不思議な気分だった。確かにスマフォは便利だと思う。遠くの人とすぐにつながることができるし、連絡手段としてこれ以上早いものはないと思う。だからこそ、もっとつながるという言葉の意味、そして便利さゆえの欠点を十分に理解しておく必要があると思った。相手が見えないからこそ、画面の向こうの誰かのことを考える必要があるのだ。速い連絡手段だからこそ、言葉を軽々しく扱ってはならない。言葉はどの場所でも平等に意味を持つ。人を傷つける言動は、現実でもインターネット上でも何も変わらないと思った。
- 安易にネット上で発言することがとても危険だということがわかりました。炎上している方も反省するべきですが、炎上させるような書き込みをする方も、悪意や偏った正義感で動いているので、どちらも反省する点はあるのではないかと思いました。

１年間ありがとうございました。来年度も人権・同和教育の学習をしっかりと続けていきます。